

1 研究テーマ

校務の情報化と情報化ソリューション
～校務の効率化と教育の質の向上を目指して～

2 はじめに

近年、学校において教育の情報化は、不可避となっている。本校においても校務の情報化については、まだまだ解決できる課題が多いと考える。平成18年度に約40年ぶりに全国的な教職員の勤務実態調査が行われた。時間外勤務は昭和41年度の月約8時間から平成18年度は月約34時間と4倍強に膨れ上がっている。また、事務的な業務にかかる時間も勤務時間内で約2倍、勤務時間外で5倍くらいになっている。このことは、本校においても例外ではなく、私自身多忙感が年々増しているように感じていた。そこで、教員自身のタイムマネジメント意識や業務実施体制の見直しとともに、校務の情報化によって少しでも効率的に校務処理を行い、教員本来の仕事、専門的な業務にしっかり時間をかけられるような勤務環境にしていきたいと考えた。

3 研究目的

校務処理の効率化を図り、教員としての専門性を発揮するべく教材研究や授業準備の時間をより確保できるなど、業務時間を有効的に活用できる環境について考察する。また、教員個人の資質を高めるだけでなく、教員間で学習情報、学級経営手法、指導情報、児童情報を更に共有するなど教員間の更なる協働体制の在り方を探る。

4 研究内容

校務情報化の効果を高めるため、以下の(1)～(6)の手順で研究を進めた。

(1)校務情報化課題の抽出

これまでの自分自身が考えてきた課題に加え、校内教職員へのアンケートと校内研修会を実施し、校務情報化課題を明らかにした。その結果、図1の校内情報共有の中で、次のような課題があることがわかった。

①校務効率

教員一人一台のパソコンが導入されているが、校務処理について、いくつかの効率化できる部分がある。

②共有情報

校内に設置されたサーバに、年度ごとに情報は蓄積されてきているが、共有情報の活用が十分にできている状況ではない。

③協働体制

校内研究、生徒指導等、協同で教育に取り組んでいる面も多いが、各教員の裁量に任せられている部分において、さらに協同で取り組むべき項目がある。

(2)情報化対象業務の選定・標準化

前述の校務情報化課題を踏まえて、所属校において今年度校務情報化を行う対象を以下の4つに設定した。

- ① 共有文書検索
- ② 校内アンケート
- ③ 出席表
- ④ 成績処理

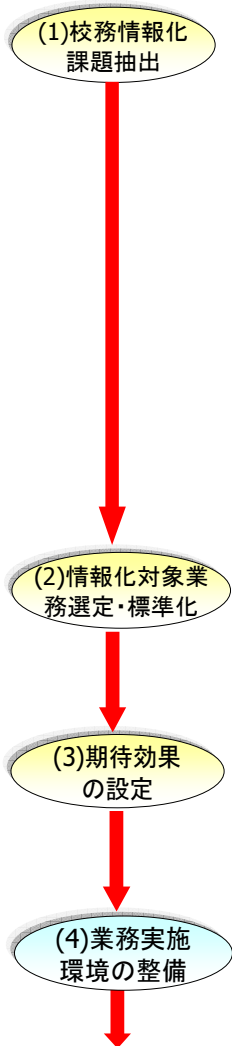
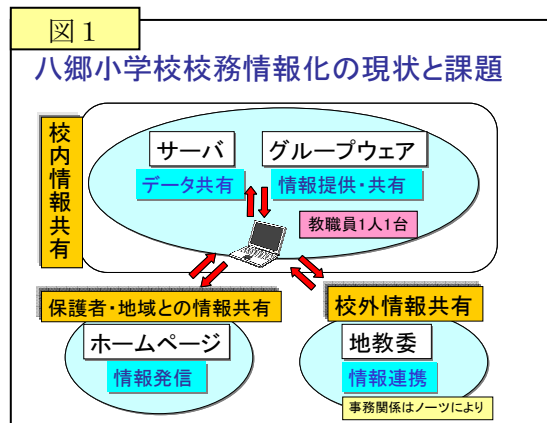
(3)期待効果の設定

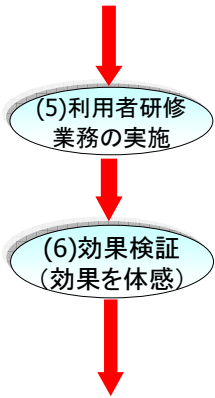
校務の電子化、さらには情報連携が進められれば、校務の効率化が期待されると考えた。また、既存の情報を整理することによって、蓄積された情報を活用し、さらに情報共有を活性化したいと考えた。

(4)業務実施の環境整備

以上のことから、(2)の情報化対象業務に設定した①～④について、業務実施のための環境整備を以下の通り行った。

- ・校務分掌一覧表からの共有文書等検索の利用





- ・エクセルで電子化した出席表の利用
- ・エクセルで電子化した単元別得点集計表，単元別個人票，観点別個人票の利用
- ・Netcommons のアンケート機能の利用促進

(5) 利用者研修，業務実施

(4)で環境整備したものを，実際の使用に向けて校内研修を行い，業務実施していった。

(6) 効果検証

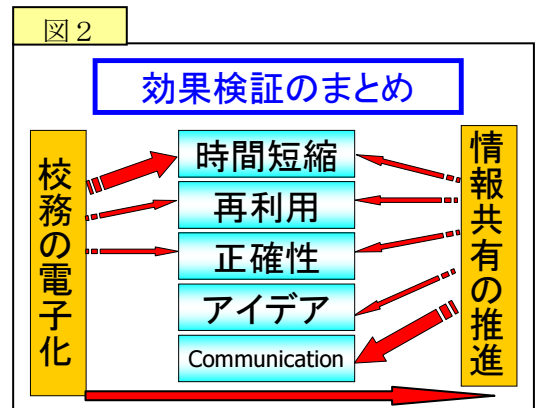
実施して約4か月後，利用者である校内の教職員にアンケートを行った。4つの業務それぞれで「使用してみてどんな効果がありましたか？」(複数回答)という質問に対して，「共有文書検索」「電子出席表」については，時間短縮に効果があると回答した人が100%であった。また，ある教諭は「電子化した出席表，得点集計表」を使用して，従来と比較して学期あたり100分の短縮になったという回答があった。そして，その短縮された時間の使い道としては，多い順に「他の校務」「授業準備」「早く帰宅」という結果であった。このことから，校務の効率化により時間の有効活用が図られたと考える。

情報共有をさらに進められるように，共有文書の整理の仕方を提案し，共有化を図り情報の蓄積が進んだ。

5 研究のまとめ

校務情報化には，校務の電子化と情報共有の推進の2つの効果があることがわかった。校務の電子化により，時間短縮とともに，再利用，正確性の向上に効果があることがわかった。また，情報共有の推進では，コミュニケーションの活性化，アイデアの共有，正確性，再利用，時間短縮に効果があることもわかった。さらに，校務の電子化したものを協同して使い業務を実施していくことによって，情報共有の推進にもつながり，教員の協同意識の向上も見られた(図2)。また，校務情報化していけば，副次的に教員のICTリテラシーも向上し，授業へのICT活用の抵抗感も減少していくこともわかってきた。

また，図3のように教育の情報化ビジョンを検討し，PDCAサイクルを意識した校務情報化を推進していくことで効果をより高められると考えた。



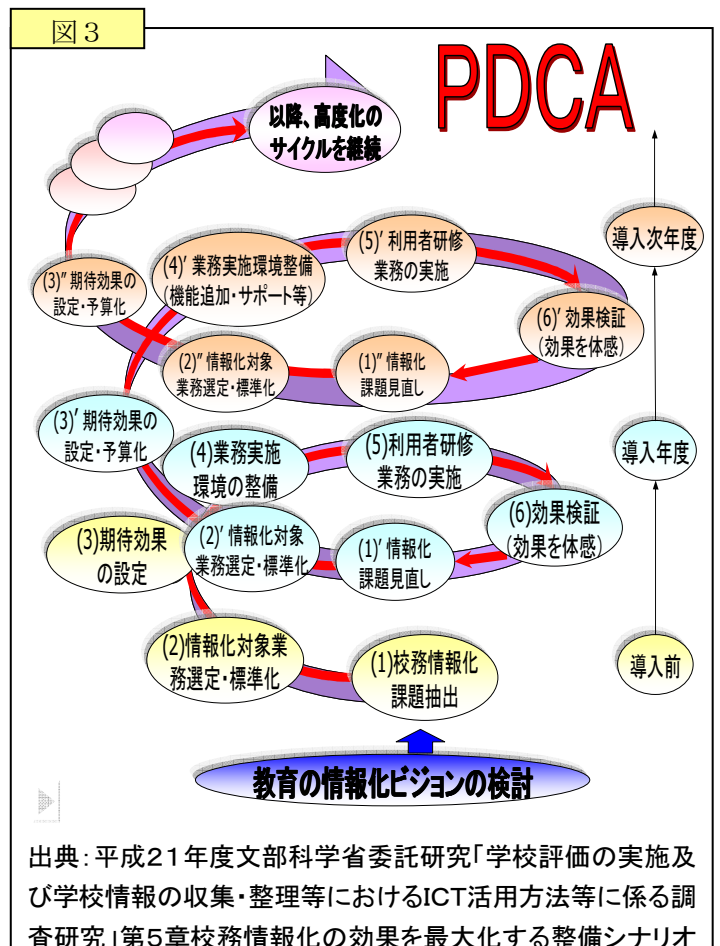
6 今後の課題

推進のための方策として前述のように，教育の情報化ビジョンの確立，校務情報化課題を抽出した上で，6つの流れを1サイクルにしたPDCAのサイクルを継続していく体制作りが必要である。さらに，限られた勤務時間をどう使っていくか，タイムマネジメントに関して教員の意識改革が必要である。

「校務処理の効率化」は「教員が楽をする」というような間違ったイメージで捉えられないように，校務情報化の意義を十分に教職員間で共通理解をして，推進していくことも課題である。

7 おわりに

校務の情報化推進状況は，各学校さまざまである。先進事例では，教育の情報化の重要性を考えトップダウンで進めているところも多い。トップダウンにしても，ボトムアップにしても長所短所はある。教員一人一人が今の業務のあり方，仕事環境について，よりよい教育ができる環境にあるのかということ自問自答し，教職員間で協議しながら，よりよい教育ができる環境を作っていくという意識が一番大切であると考えます。



出典：平成21年度文部科学省委託研究「学校評価の実施及び学校情報の収集・整理等におけるICT活用方法等に係る調査研究」第5章校務情報化の効果を最大化する整備シナリオ